

# SDT データの分析 ( Yes/No タイプ )

PSDTMLE.exe

Yes/No タイプの SDT データを分析するプログラム PSDTMLE.exe を起動すると、図 1 のフォームが提示される。

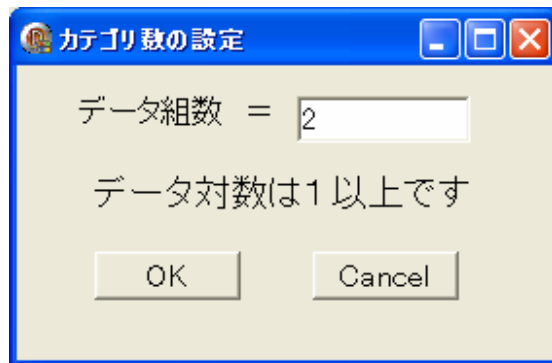


図 1 起動時のフォーム

データの数をデータの組数として設定する。図 2 はデータの組数が 3 の場合の設定である。

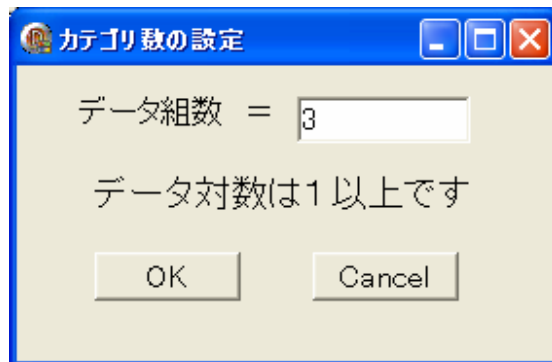


図 2 データの組数の設定

データの組数の設定後、「OK」ボタンをクリックするとデータの入力画面が表示される(図 3 )

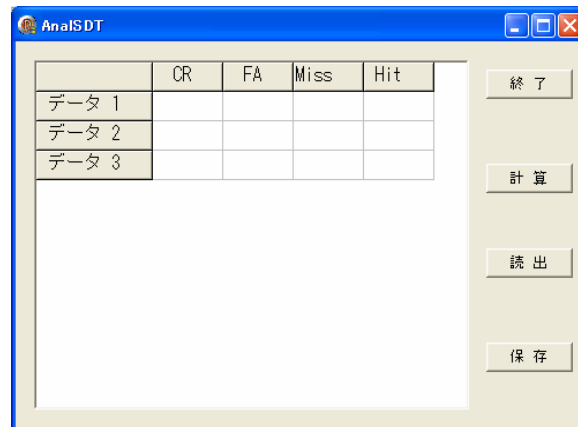


図3 データ入力画面

拙著表 3.3 のデータを設定すると図4のようになる。

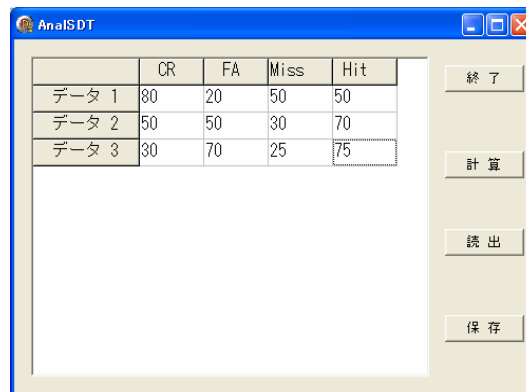


図4 データの設定

設定したデータは、「保存」ボタンのクリックでファイルに保存することができる。保存したデータファイルを読み込むときは、図1の起動時のフォームにおいて「Cancel」ボタンをクリックする。「Cancel」ボタンのクリックで図5の画面となる。

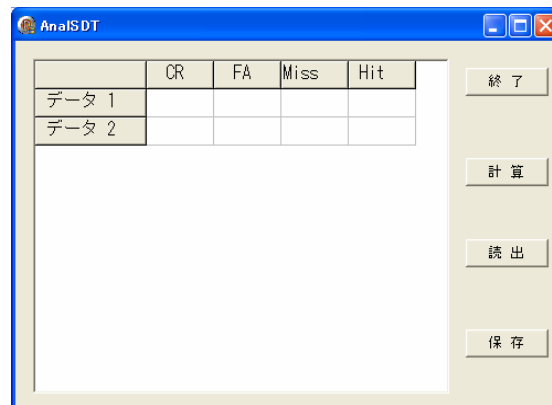


図5 「Cancel」ボタンのクリックで表示される画面

図5の画面で「読出」ボタンをクリックすると図6の入力データファイル名の設定を求めるダイアログが表示される。

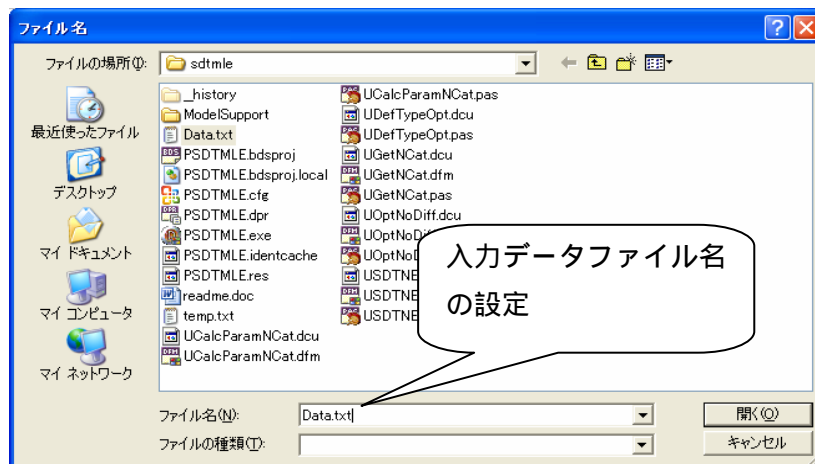


図6 入力データファイル名の設定

入力データファイルは図7のような形式のテキストファイルである。

	USDTNE	PSDTMLE	Data.txt
1	B		
2	80	20	50 50
3	50	50	30 70
4	30	70	25 75

図7 入力データファイルの形式

第1行目にデータの組数が設定されている。2行目から各組のデータが図5のセルの順序で並べられている。このデータファイルを読み込むと図4の画面となる。図4の画面の「計算」ボタンをクリックすると、まず出力用ファイルの名前の設定を求めるダイアログボックスが表示される(図8)。

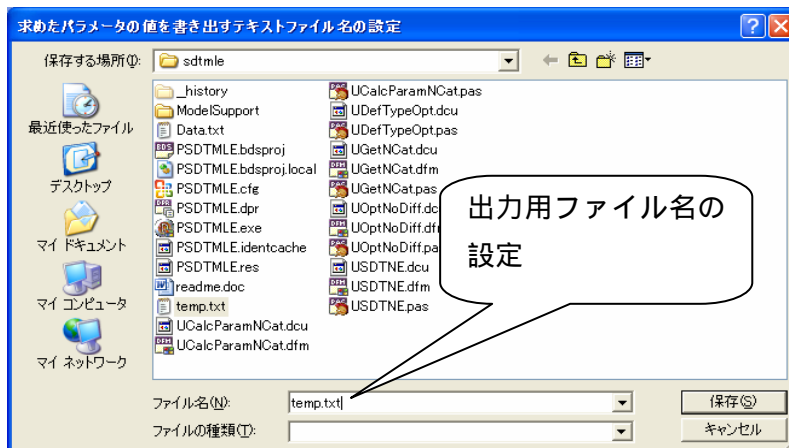


図 8 出力用ファイル名の設定

出力ファイルへはテキストファイルとして書き出されるので、ファイル名の拡張子は「.txt」としておくと便利である。ファイル名の設定後、「保存」ボタンをクリックすると計算が始まり、分析結果が図 9 のように表示される。

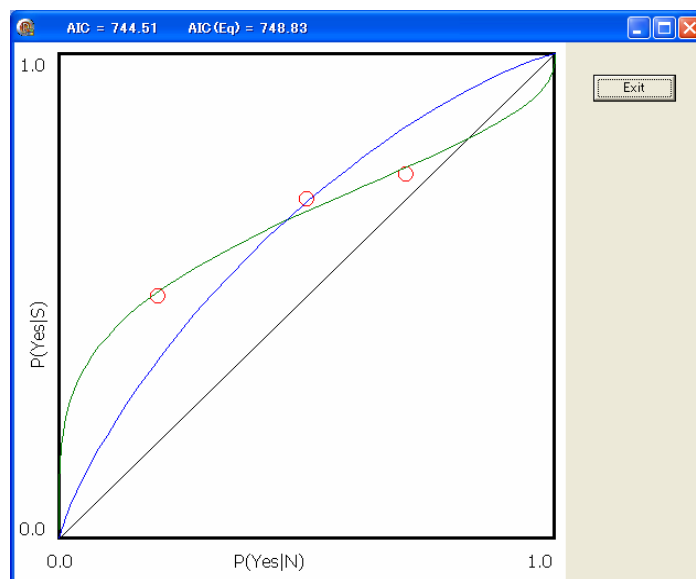


図 9 分析結果の表示

図 9 は、拙著図 3.9 のものと同じである。図 9 の画面の「Exit」ボタンをクリックするとプログラムの実行終了となる。プログラムの実行終了後、図 8 で指定した名前の出力ファイルをテキストエディタで開くと図 10 のようになっている。

```
1 AIC(NE) = 744.51
2 d' = 0.88883
3 R = 1.9537
4 c[1] = 0.854 FA = 0.200 Hit = 0.500
5 c[2] = -0.026 FA = 0.500 Hit = 0.700
6 c[3] = -0.506 FA = 0.700 Hit = 0.750
7
8 AIC(Eq) = 748.83
9 d'Eq = 0.5085
10 R(Fixed) = 1.0
11 cEq[1] = 0.657 FA = 0.200 Hit = 0.500
12 cEq[2] = -0.008 FA = 0.500 Hit = 0.700
13 cEq[3] = -0.356 FA = 0.700 Hit = 0.750
14
```

図 1 0 出力ファイルの内容

図 1 0 に示されている内容は、拙著表 3.4 に示されているものを含んでいる。